



未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 3月号

気働きて?!

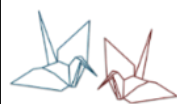
みなさんは、「コストコ」という大型店舗をご存じだと思います。きっと、お買い物に出かけたことがあるという方も多いことでしょう。先日僕も、家族に頼まれたものを買いに、かみさんと出かけました。実は僕、「コストコ」さん、あまり好きではないのです。休日のすごい混雑も嫌ですし、よく見て品選びをしないと、市中のスーパー等の方が安いものもあるような気がします。(私的な見解です。) なんだか、労力をかけて行く意味がないなあなんて思っています。

久しぶりに来店したこの日は、めずらしくそんなに混雑はしてはいませんでした。ほっとしながら大きなカートを押しました。目的のものをカートの上に載せて(大きいものだったので)、その後も様々な棚を見て回りました。その時、「ああ、そういうことか。」とはじめて自分が「コストコ」を苦手にしている理由が分かりました。どんな理由だったと思いますか。

僕は、あの大きなカートを生懸命押します。何に一生懸命なのかと言え、他の人の邪魔にならないように、他の人にぶつからないように、迷惑かけてないかなとそれを気にすることに一生懸命なのです。後ろから来た人が、「ああ、ここ通りたいのだな」と思えば、脇の通路によけたり、止まって商品を見ている人がいれば、通れるようになるまで待って通ったりします。これ、結構疲れるのです。本来、僕が自分で選択して勝手にやっていることなのではないことだし、疲れれば良いことです。しかし・・・、こうすることが大事だと思っている僕は、まわりの、他人のことをまるっきり考えず、自分のカートを進みたいように動かす人や、見たい品物を見ることだけしか目に入っていない、カートを考えなしに置いている人たちに対して、怒りを感じてしまっていたのです。僕は、この自分の中に怒りが生じるということが、きっと嫌だったのだと、そのことを苦手に感じていたのだと思います。

これに似たことを狭いお店の通路で、人とすれ違う時にも感じます。自分が棚を見ているときに、僕の後ろを通りたい人がいて、気づくことができればよけるのですが、気づけないときもあります。そんな時、無理に通ろうとする人に遭遇したことはありませんか。気づけなかったのは、悪いけれど、通るつもりなら、たったひと言「ごめんなさい。通ります。」と言ってもらえれば、たとえばつかったとしても嫌な思いをせずすみませう。「こち

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和7年2月28日発行



らこそ、気づかずすみません。」と返すこともできるわけです。生きるということは、自分が主軸だし、自分を1番に大切にしなければならないのは自明です。動きようがありません。けれど、その一方でまわりの人への気遣いができないのは、あまりにも情けないとは思いませんか。

お店が混むことも、すれ違わなければならないことも、仕方のないことです。僕が思うのは、1人だけで生きているわけではないので、互いに少しずつ気を遣ったり、声をかけたり、感謝を口にするをすることで、もっと生きやすい世の中になるのではないかとということです。

「気働き」という言葉を聞いたことがありますか。辞書で引くと、その場にふさわしい心の働き、その場に應じて気が利くことと出ていました。子どもたちの未来を考えたとき、誰に言われたからではなく、その場にふさわしい行動ができたとしたら、その時に應じて相手のことを思いやって動けたとしたら、どうでしょうか。きっとその子は、まわりの人から愛されるでしょう。かわいがられること間違いなしです。子どもたちの幸せを願うのだとしたら、まわりの他人から愛される力は、子どもたちの助けに絶対になります。

それでは、どうしたら「気働き」ができるようになるのでしょうか。東京大学の遠藤先生は、こういった「非認知の力」(テスト等では測れない力)を育む方法として、ごくごく普通の関わり、子どもたちが外の世界に働きかけて、怖い思いをしたり、不安をおぼえた時にしっかり安心させる、ぎゅっとだきしめて大丈夫だよと伝えてあげる。そしてエネルギーを充電して、また外の世界に向かっていく子どもの背中を押すことだとおっしゃっていました。僕は、ここにもう一つ追加したいと思います。

子どもに関わる大人が、想像力を働かせて、他の人を思いやる、その姿を見せることではないかと思うのです。だれかの気持ちや、この人は〇〇したいんだなと「想像」することはとても難しいことです。そういう思考があるのだと、そう考える必要があるのだと教えることが、まず必要なのではないかと考えます。

思えば、僕の父も母も、昭和の人なので「他人に迷惑をかけない。」ということについては、本当にうるさく言いましたし、2人自身がそのことをとても意識していたと思います。過度に「他人に・・・」と考えすぎるのはよくありませんが、「想像力」をもって生活してみると、様々な人の思いが自分に流れ込んでくるのではないのでしょうか。